

# HIMALAYA

## ヒマラヤ No. 120

● 特集 冬期エベレスト西稜



1981 NOV

日本ヒマラヤ協会



THE HIMALAYAN ASSOCIATION OF JAPAN — HAJ

# 1982年ヒマラヤ登山学校隊員募集

## クン (7,077m)

1980年登山学校は、20名中19名がケダルナート・ドーム(6,831m)に登頂するという成果をあげて帰国しました(本誌109号既報)。隊員の中にはすでにヒヤラヤ、アンデス、アラスカ等における高所登山経験者から、国内の冬山すら未経験という人にいたるまで幅広い層が参加していました。HAJでは経験豊富なインストラクターのもとに、正しいセオリーにのっとり安全確実な高所登山を指導しております。隊員はすべて、装備・食糧・梱包・輸送・渉外等の具体的な準備実務にも参画していただき、また国内での強化合宿も行なうなど、ヒマラヤ遠征全般について体得することができます。次回には自ら遠征を行なえる人材を養成することが、この登山学校の主眼となっております。実際に、卒業生の中には自ら隊長となって隊を組織し、成功をおさめて帰ってくる意欲的な人もでてきております。

1982年度はカシミール・ヒマラヤの秀峰クン(7,077m)にて実施する予定でおります。ふるって御参加下さい。

### 実施要項

- 目的** ①クン(7,077m)登頂  
②高所登山の基礎修得
- 時期** 1982年7月末～8月末
- 負担金** 69万円(航空運賃の変動等により変わることもあります)
- 定員** 20名(申込順)  
インストラクター4名(医師含む)
- 申込み** 1981年11月末までに下記宛に申込みこと(資料を送ります)
- 〒160 東京都新宿区高田馬場3-23-1  
淀橋食糧ビル506 日本ヒマラヤ協会

この登山隊の旅行手続は、(株)西遊旅行が担当します。旅行業代理店業1976号

### 表紙写真

ザンスカールの中心部に、僅か3戸からなる集落ゴンマ(4030m)がある。ゴンマの婦人達は陽気で人なつこい。戸外労働の激しさのためか年よりはふけて見え、爪は伸びる間もないのか深爪の状態であった。左端の婦人が被っているベラックにはトルコ石がびっしりついていた。(提供:中垣淑子)

## ヒマラヤ No. 120

1. **ヒマラヤ放談** ————— 高本信子
4. **特集** 冬期エベレスト西稜登山計画(日程概要、隊員名簿)
5. 日程概要
8. 隊の構成
10. ヒマラヤニュース〈地域・インフォメーション〉
11. 時評“沙の村” ————— 木村陽子
12. インドヒマラヤ1980年リスト(その1…外国隊) — 資料IMF提供
18. **連載** ヒマラヤ閑話 ④⑤ ————— 水野勉
20. ヒマラヤの報告書紹介 ⑧
21. 日本ヒマラヤ会議・開催予告
23. 新入会員
24. 寸感・事務局日誌

※都合によりトレッキング許可で登れる山は休載させていただきます。

# ヒマラヤ放談

この人の経歴は、キャリアウーマンという言葉  
を連想させるが、素顔は意外である。フリーのT  
V、映画のベテラン編集者であり、海外遠征もキ  
リマンジャロからヒマラヤ、アンデスと巾広い。  
高山研究所（原真 所長）との関係も深く、今回ダ  
ウラギリ単独登頂の禿博信氏のサポートを勤め、  
来年はシシャバンマへと情熱を燃やす。今回はダ  
ウラギリの話や、日印女性合同登山隊の話など伺  
った。日本山岳会（婦人懇談会）理事、独身。



## 高本 信子

### ● 初めて解かった母の気持

—今年前半の話題を集めたダウラギリI峰の禿  
さん（高山研究所）のサポートをなされた訳です  
がその時のエピソードなど。

高本 そうね、印象の深い遠征でしたね。禿さん  
に6月1日に北東稜のコルが上がってくれと言わ  
れ、バサン（サーダー）と2人で上がったけれど  
2日になっても3日になっても降りてこないの  
で本当に心配しました。バサンは「禿は死んだかも  
しれないからBCに下ろう。」なんて言うしね。  
—コルから北東稜はよく見えるんでしょう？

高本 ルートはよく見えるの。でも150ミリの望  
遠使っても何も見えなかったわね。でも北東稜を  
ゆっくりと行けば1週間はかかると計算し、長く  
みても5日には帰ると考えてましたから。それに  
してもあんなに心配したのは初めて。話違うけど  
私が山に行っていると、うちの母なんか残されて  
いる訳でしょう。だからその時、残されている者  
の気持ちってこんな気持ちなのかってつくづく解かり  
ましたね。（笑）あんな気持ちで待っているのはも  
う嫌ですね。（笑）

—4日の日は見えたでしょう？

高本 それが見えないの。（笑）朝、快晴でバサ  
ンが禿が降りてくるのが見えると言うのよね。私

は望遠でも見えない。（笑）

—すごい目ですね。うらやましいな。

高本 それで、昼頃帰ってくるだろうからって温  
い飲物と食料持たせてバサンをやったけど、2時  
頃ホワイトアウトになって1人で戻ってきたのね。  
だから今日もどこかでビバークして明日の朝降り  
てくるんじゃないかしらって、4時半頃食事をす  
ませ寝ようとしたら、外で声かして禿さんが降り  
てきていた。（笑）本当にビックリしたわ。

—あの、本人どうでした？ヨタヨタでしたか？

高本 いや、そんなでもなく「登ったよ。又足や  
られちゃった」てね。今まで何回か一緒に遠征に  
行ってるけど変わんなかったですね。でも、帰りの  
キャラバンでは大分疲労が残っていた様でした。  
—うーん強いですねえ。禿さんはこれまで7千  
mを越えていないでしょう。

高本 ええ

—それで準8千mの山にしたのでなく、いきなり  
8千m峰でやったのが面白いというかユニーク  
ですね。それと禿さん精神的にも強い様ですね。

高本 かなり強いみたい。

—彼の本業はお寺の坊さんでしょう？それも何  
か関係しているのかな。

高本 どうでしょうかね。禿さんに「1人の時何

を考えているの？」って聞いたら「食べる事しか考えないよ。」って言ってたわ。(笑)

——ところで、高本さんは高山研とのつき合いも長く、タルコットからワスカラン、アコンカグア、今回のダウラギリと参加され、来年はシシャバンマ(高山研、原真隊長)に行こうとされている。高本 シシャバンマは参加する条件がそろったら行きたいと思いますけど。

——そこで、高本さん自身のお感じになっている高山研の魅力とか思い入れといったものは？原さんの理論と実践ですか？

### ● 速攻登山への憧れ

高本 ええ、それもあります。私が最初経験したカメット(JAC婦人部1976年)は日印女子合同の割と大きな隊だったでしょう。それと、他の大遠征隊や極地法とかを見てね、どうもしっくりこなかった。それと別にあの頃でもライトエクスペディションの隊があったし、あんな登り方がいいなと思っていた訳ですね。で、タルコット(1977年)が短期速攻の登山でいいなと思い参加したんですね。そのあとのワスカラン(1979年)はね、南米は行きたくて行きたくて仕方なかったから(笑)。それと講師のはしくて行っただから、自分達のパーティの力量、判断で登る形式でしたから回りを気にせずに登れたのね。

——その時のワスカランのレポート(岩と雪71号)は興味深く読んだのですけれど、低圧室の効果はどうでしたか？

高本 あの時はあんまり感じなかったわね。それよりアコンカグア(1980年)の方が効果を感じたわね。その半年前ですか、私ケダルナート(JAC婦人懇談会)に行っていましたし、出発の1週間前に低圧室に入って、一気にBCに入っても私や半数近くの隊員も全く異常なかったわね。それで翌日から上にあがっている。これはすごいんだなと思いましたね。

——高山研のユニークな点は順応方法論だけでなく、登山スタイルそのものも追求している点にあると思いますね。

高本 そう思います。だから私としても、7千m

位の山を、小人数での速攻登山をやりたいと思っています。考えが甘いと言われるかもしれないけれど、でも行こうと言っても中々乗ってくれる人がいないのね。(笑)

——来年のシシャバンマは、北壁、南壁、ノーマルルートと分かれてやるとありますが、原さん御自身は今度は登られる考えなんですか？

高本 計画書の主旨からいってそう思います。

——高本さんはどのルートを……。

高本 私なんかノーマルルートが精一杯じゃないんですか。(笑)

——シシャバンマは登攀隊員1~2名で短期速攻登山をやるとありますが。

高本 だからそれを考えると私なんか無理じゃないかって思っちゃう(笑)。

——いやいやがんばって欲しいですね。

### ● 合同登山の難しさ

——ところで、この7月JAC婦人懇談会でインドの女性登山家3名を招待されましたけど、きっかけは。

高本 これまで2回の合同登山(カイラシュ1968年、カメット、アビ・ガシン1976年)がきっかけです。それで、3回目は大げさなだけども日本で合同登山やろうって話があったのよね。親善登山って感じで。招待という形ならこちらが予算を全額もてば良かったけど、それもできなくてIMFのサリーンさんに、ある程度折半にして欲しいと申入れてあったのよね。(笑)それで長びいちゃって。

——どこに登られましたか。

高本 始め奥穂へ登って、それから立山、剣と行きました。

——富士山は登らなかつたんですか？

高本 登りたいと言っていました。が日程の都合で無理で、それにあちこちからインタビューの申入れがあったり、京都や奈良も観てもらおうというので忙しかった。

——日本の山についてどう言っていましたか？

高本 勿論、高さでは比較にならないのですが、麓の緑は豊富で、花もととてもきれいだ、かなり

楽しみたい。それなりの良さはあるって話でした。

—合同登山は、ともすると許可取得のための手段となったり、又、トラブルが多いという印象があるんですが、その点はカメット、去年のケダルナート、今回と友好的にやってきた様ですね。

高本 カメットも合同隊ということで許可がおりて、最初のうちは良かったけど後半は感情的な行き違いがありましたけど。あの、登山隊に参加する意識の違いというのがあるのね。私達は自分達の隊で1人でも登れば全体の力で登れたんだと考える。ところが向こうは、自分が登ればいいって考えなのね。それはそれで、登りたいという気持は必要だし当然だと思うのね。でも、シーナさんなんか隊長という立場を考えて欲しかったわね。荷上げの問題なんか無視して自分が先にどんどん上にあがっちゃうんだもの(笑)。

—まあ、民族的な違いとか難しいところがありますね。

高本 日本人と違って自分の意見をはっきりと主張するでしょう。そういう気質の違いを飲みこんでおけば対応できたと思うのね。だから、私達ももっと英語ができて、お互いに言いたいことを言い合えれば又違ったと思うんですね。言葉のハンディで気持をうまく表現できないし、お互いの気持にミゾができれば深まる一方ですから。

—成程、合同登山の第一歩は言葉からか。次のプランの話はあるのですか。

高本 ええ、私とシーナさんとの個人的な話ですけど、たまたま私がシッキムに行きたいと話したら、「じゃ、シッキム側からのカンチはどうか」って大きな話があって(笑)。

—あっ、それは面白いですね。4回目だし、いい形ができるんじゃないですか。

高本 やはり合同でなければ入れない地域がある訳で、それは大いに活用していいんじゃないですか。何か本音とタテマエが違うんだけど。(笑)でも合同隊もいいけど、私は気心の知れた2~3人でどこかの山を登りたい気がする。女だけで。—女性だけの隊が理想ですか。

高本 それにはこだわりませんが、男性と行くとき常にリードされている面があるでしょう？疲れます。だから同じ様なレベルの人と行くとホッとするのは。(笑)

—自分なりの、本来の登り方ができるということですか。

高本 そうね、だからどんなに時間がかかっても楽しい。でも永い間一緒にいると女同志でも嫌になるかもね。(笑)

—仕事の話になりますが、フリーを続けられる理由はやはり山ですか？

高本 ですね。でないと、とても長い休みは取れないしやめるのを覚悟で行かなくちゃならない。ある年齢になったら再就職は難しいですから。でも最近はVTRが多くなって仕事もかなり厳しくなりましたね。(笑)

—現在お独りで、山が恋人の様にのめり込んでいらっしゃるようですが、仮に魅力的な男性が現われて、「山は止める。」と言ったらどうしますか？

高本 止めます。ハハハ、相手によりますけど止めると言われたら止めちゃう(笑)。でも、誰かが言ってましたけど、山より素敵な男性が現われるでしょうかって。(笑)

—じゃ、そういう魅力的な男性が現われるまで大変ですね。当分山に行き続けなくちゃあ(笑)というところで、今日はどうもありがとうございました。

(インタビュー、構成 関 久雄)

## 「ヒマラヤ」表紙写真募集

- (1)モノクロでキャビネ判以上であること。
- (2)被写体は広義に解釈したヒマラヤ地域のものであること。山とは限りません。山麓の風物でも結構です。

〈送り先〉

〒160 東京都新宿区高田馬場3-23-1 淀橋  
食糧ビル506 日本ヒマラヤ協会「ヒマラヤ」

## ●特集

# 冬期エベレスト西稜登山計画

本年6月2日、カトマンズにてカンチェンジュンガ隊のパーティの席上で挨拶に立ったネパール政府観光省のシャルマ氏から、本年の冬のエベレスト西稜へ招待を受けた。以下計画のあらましについて紹介する。

## 趣 旨

サガルマータ 大空の女神……とも呼ばれる世界最高峰のエベレスト(8,848 m)の崇高にして巨大なそのピラミダルな山容は、登山を志す岳人にとって尽きせぬ憧れであります。

エベレストは、「第三の極地」と称されるように文字通り世界山岳の盟主として地球の屋根、ネパール・ヒマラヤに君臨しております。ヒマラヤに於ける登山は、より困難を求めて巨大な壁や長大な縦走が注目され、さらには、より自然条件の厳しい冬期登山へとめざましい進展を見せておりますが、此の度のエベレスト西稜の冬期登山は、未だ厳冬期に於いて人跡未踏のロー・ラからダイレクトに西稜を登攀する計画であり、現代の科学・登山技術の最先端を駆使してもなお、その困難度は考え得る最高のレベルにあると言えます。

文明は常に未知なる課題への勇気ある挑戦によって緊張し発展してきたことは歴史の示すところであります。私たちがこの極限の課題を目標として設定したのも、人間のひたむきな向上心と冒険心、ロマンを求める純粋さを原点としております。

本会が創立以来、絶え間なく著積してきた高所登山の経験と研究はすべて本遠征に集約され、確かな力として生かされることを信じております。

私達は、本遠征の実施にあたり、最少投資・最大効果を基本としておりますが、目的完遂のためには歴大な人間のエネルギーと共に多量の物量が必要としております。

私たちは、このプロジェクトの持つ登山史的・社会的意義を十二分に自覚し、総力を傾注して推進いたしますので、おおかたのあたたかい御援助を切にお願い申し上げます。

## 1. 目標の山

ネパール王国、エベレスト(EVEREST)峰  
(別名、サガルマータ、SAGARMATA, 8,848m)

## 2. 登山期間

1981年12月 ~ 1982年1月

## 3. 目 的

厳冬期におけるエベレスト西稜からの初登攀。

## 4. 隊の名称

HAJ冬期エベレスト登山隊 1981—1982年  
(英文名) HAJ EVEREST EXPEDITION WINTER 1981—1982  
(略称) HEEW — 81~82.

## 5. 主 催

日本ヒマラヤ協会(The Himalayan Association of Japan 略称 HAJ)

## 6. 後 援

ネパール王国政府、文部省、(社)日本山岳協会、日本テレビ放送網、読売新聞社

## 7. 隊の構成

隊長 菊地 薫(35才)  
隊員 12名 リエゾン・オフィサー 1名  
シェルパ 17名

## 8. 推進の組織

日本ヒマラヤ協会冬期エベレスト遠征事業実行

## 委員会

- 会 長 柴田金之助（日本ヒマラヤ協会会長）
- 実行委員長 稲田定重（同専務理事）
- 副実行委員長 菊地 薫（登山隊々長）
- 事務局 長 山森欣一（日本ヒマラヤ協会事務局長）
- 委 員 西郡光昭・八木原暎明・登山隊隊員
- 事務局 〒160 東京都新宿区高田馬場3-23-1 淀橋食糧ビル506号  
日本ヒマラヤ協会

現地事務局 c/o EXPRESS TREK - KING(P) Ltd. P. O. BOX 339  
Naxal Bhagabati Bahal, Kathmandu, NEPAL.  
TEL : 13017

## 9. 目標の山の概要とルート

### ◎山の概要

ヒマラヤ山脈の中央部に北側は、中華人民共和国チベット自治区、南側はネパール王国にまたがって世界の最高峰エベレスト（8,848m）は聳え立っている。

エベレストの山容は、ピラミダルな形をなしており、東南稜、西稜、北東稜（途中より北西稜を分岐）の三つの稜線と、南西壁、北壁、東壁の三つの壁をもち南西壁はクーンブ氷河、北壁はロンブク氷河、東壁はカンシュン氷河に向かって一気になぎ落ちている。

エベレストは1852年、インド測量局に於いて測量結果の集計中にPeak-15と呼ばれていた峰が世界の最高峰であることが「発見」されてから、一躍、世界の注目の的となり、果敢な闘いが展開されていった。1953年5月29日、この世界山岳の盟主エベレストもついにその頂に人跡を許した。それは、32年もの長期にわたるイギリス人の執念に依って陥落させられたのであった。

エベレストが初登頂されてからすでに28年も

の星霜を重ねる中で、ノーマル・ルートからバリエーション・ルートさらには過酷な自然条件下の冬期へとより困難な課題追求の挑戦は今もなお続けられており、それはやはり地球上の「第三の極地」としての所以であろう。

### ◎ルート

私達が今回登頂予定をしているルートは、未だ厳冬期に於いてはトレースされていないロー・ラからの西稜ルートである。

クーンブ氷河の「エベレスト・BC」として有名な5,400mの地点にベース・キャンプを設置し、ベース・キャンプからはロー・ラへとダイレクトに取り付く。ベース・キャンプとロー・ラの間には急峻な氷壁と岩壁帯が立ちほだかりこのロー・ラ突破が第一期登山活動期間に於ける一つのキー・ポイントになるであろう。

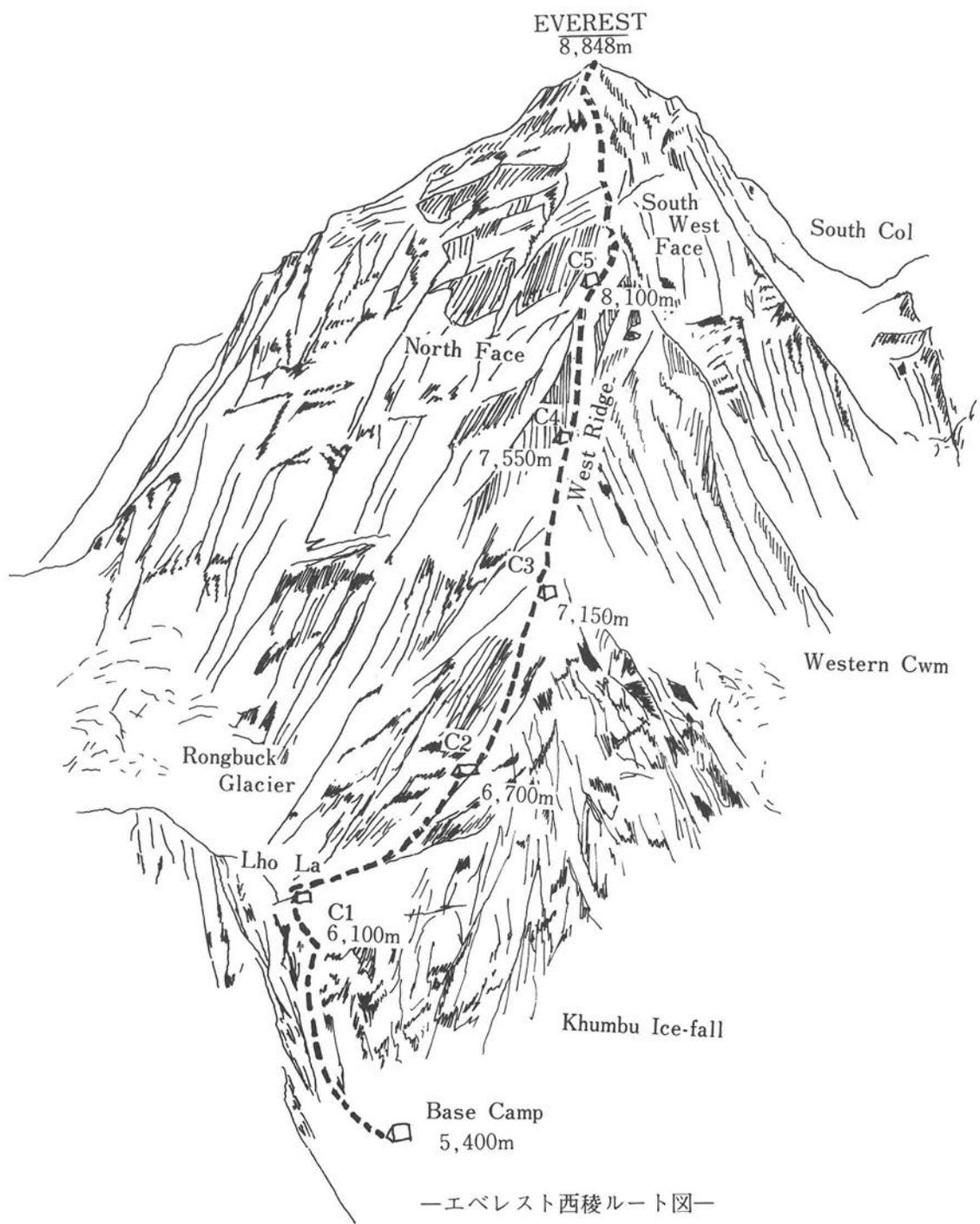
ロー・ラからは西稜を稜線通しに忠実に辿り、C・1（6,100m）、C・2（6,700m）、C・3（7,150m）と順次キャンプを延していき西稜上部岩壁帯の基部にあたる7,550mの地点にC・4を設ける予定である。

エベレスト西稜はこのC・4から上部に至っては俄然様相が厳しくなり急峻な頂上岩壁帯を形成するようになる。

この頂上岩壁帯の登攀は高々所と云う高度の高まりに伴って技術的にもかなり高度なものが予想されるうえ、加えて強風・酷寒と云う厳冬期の厳しい自然条件下での登攀は、将に想像を絶するような苛酷な試練を課せられるものと考えている。

### ◎キャンプの高度と位置

- B・C 5,400m クーンブ氷河のロー・ラ取り付き附近。
- C・1 6,100m ロー・ラ附近。
- C・2 6,700m 西稜上。
- C・3 7,150m 西稜の肩。
- C・4 7,550m 西稜上部岩壁帯の基部。
- C・5 8,100m 頂上岩壁帯の途中。



—エベレスト西稜ルート図—

(ベランのパノラマより模写)

- 1978年春 ヒマルチュリ (7,893m) (副隊長、登頂者)
- 1981年春 カンチェンジュンガ (8,598m) (登頂者)
- 1981年秋 ナンダ・カート (6,611m) (副隊長、登山中)

隊員  
佐久間 隆

- 4) 1976年春 ハンチントン (3,732m)
- 1981年春 カンチェンジュンガ (8,598m)

隊員  
角田 不二

- 4) 1978年秋 トリスル (7,120m) (登頂者)
- 1980年春 カンチェンジュンガ (8,598m) 偵察隊
- 1980年秋 ケダルナート・ドーム (6,831m) (登頂者)
- 1981年春 カンチェンジュンガ (8,598m) (ヤルン・カン登頂者)
- 1981年秋 ガンガブルナ (7,455m) (登攀隊長、登山中)

隊員  
片岡 邦夫

- 4) 1975年夏 マッキンレー
- 1979年夏 ルプガル・サール (7,200m) (登頂者)
- 1979年秋 デイオタイバ (6,001m) (登頂者)
- 1979年秋 チュルー (6,630m) (登頂者)
- 1980年春 カンチェンジュンガ 偵察 (8,598m)
- 1981年春 カンチェンジュンガ (8,598m) (登頂者)
- 1981年秋 ドルジエラクバ (6,990m) (隊長、登山中)

隊員  
鈴木 茂

- 4) 1978年秋 ダウラギリ主峰 (8,167m) (登頂者)
- 1981年春 カンチェンジュンガ (8,598m) (登頂者)

医師 交渉中

## 地域ニュース

### 《インド》

ヒンズー教徒、中国領聖地へ

インドのPTI通信が9月6日伝えたところによると、中国領チベットにあるヒンズー教の聖地への20年ぶりの巡礼第一陣20人が9日、ニューデリーを出発する。この聖地巡礼は1962年の中印紛争以来、凍結されていたが、さる6月末インドを訪問した黄華・中国外相が再開を提案していた。

問題の聖地は中印国境から100Kmほど入った、カイラシュ山(6,600m)のふもとのマンサロバール湖。巡礼団は9日間かけて山中を歩いてチベットに入りさらに9日間滞在する。9月中旬に計3隊が出発する予定。(9.6付読売新聞夕刊より)

### 《パキスタン》

ギルギット地区でM5.7の大地震

パキスタン政府が9月14日明らかにしたところによると、同国の北西辺境州で12日起きたマグニチュード5.7の地震で、これまでに110人以上が死亡、約100人が重傷を負った。

同地震では、ギルギット地区の10村が完全に破壊され、道路や通信が途絶した。

(9.16付読売新聞より)

## インフォメーション

### ◇ 海外登山研究会

東京都山岳連盟

東京都山岳連盟では恒例の海外登山研究会を開催します。今後遠征を計画される方、又、海外の山に関心を持つ方々の出席を期待します。

◇期日=11月28日(土)~11月29日(日)

◇会場=国立オリンピック記念青少年センター

◇人員=100人(定員になり次第締切)一般参加もOK

◇費用=5,000円(宿泊食事資料代含む)

◇内容=・56年度登山隊報告(中国、ネパール、インド、パキスタン)

・最新のヒマラヤ情報

◇申し込み=・ハガキに住所、氏名、所属団体を記入して左記へ。申し込みと同時に左記口座へ会費を払い込むこと(開催要項をお送りします。)

### ◇ 秘境ヒマラヤ——映写会

東京女子大学

このたび、私たち研究会では、下記の通り記録映画「秘境ヒマラヤ」の映写会を催します。この映画は、川喜田二郎氏をはじめとする西北ネパール学術探検隊によって撮影されたもので、ヒマラヤの山々と、その中に住む人々のめずらしい風習や生活様式をとらえた貴重な映画です。皆様おさそい合せの上、ぜひ、ご来場下さい。

日 10月16日(金)  
時 午後6時30分より  
会場 中野公会堂

入場料 500円

### ◇ 沙の村——映写会

グループ現代

インド北西部に位置するラジャスタン州、そこに、タール沙漠という広大な沙漠が広がっている。この映画は、そこに生活する人々の“存在”をスケッチした一篇の詩集である。

日時 10月19日~23日 PM.6:30  
10月24日~25日 PM.0:30とPM.5:00

場所 麻布公会堂

入場料 前売1,000円 当日1,200円

※10月24日と25日は、グループ現代の1979年度作品「ラマ教の高地にて—インド・ラダックの旅」を併わせて上映する。



## 時評

木村陽子

見渡す限りの沙の大地、その大地をラクダがゆっくり歩いていく。群れをなしながら。暑い熱気。ここは、インドの西に広がるタール砂漠。映画“沙の村”は、ここタール砂漠の中にあるサムラウという村で撮影されたものです。人間が果たして住んでいけるのかと思うほどの乾いた、荒涼とした広大な大地の中に、数々の生命が存在している。その生命を、彼らと生活を共にしながら見つめ、つくり出されたこの映画。インドというとても大きく大きな国の小さな村。しかし、ここもまたインドなのです。

昨年、私は登山学校終了後一人でインドを旅してきました。アジアに位置しながらも、私たち日本人にはなぜか遠いなじみの薄い国で、何の知識も持たない行き当たりばったりの旅でした。

インドは、貧富の差が激しく、カーストと呼ばれる身分制度の縦社会です。旅をしながら、それぞれの階級の中で人々が堂々と生きている姿には驚かされました。乞食をしながら、体じゅう汚れながらも必死に生きようと食べ物を乞う子供の姿。同情を寄せても彼らはちっとも動じない。くれないなら、くれないでいい。何かやっても当然のことのような顔をして、私の前を去っていくあのふてぶてしさ。スリナガルという北部地方の町で、小さな子供達がジュータンを織っているのを見た。まだほんの5、6才の彼らが学校にも行かず、一日中ジュータンを織り、そして織り続けて人生を過ごす。その姿をカメラに撮ろうとして、私はそうする自分が悲しくなった。そんな私を見ながら、彼らは手を止めず織り続けた。アグラの街では「いらぬ。」「いらぬ。」と言ってもなおしつこく

土産品を売りつけてくる。ずうずうしい若者達。ベナラスという街では、ホテル代を倍以上にふっかけられ、だまされたと嘆いても、澄ました顔で、だまされる私が悪いのだと言いはるリキシャマン（タクシーの運転手）。彼らは生きる為に生きている。自分達の生活環境に対し、何の疑問も不満もなく堂々と、また悠々と生きている。現実の世界が、彼らには人生すべてなのです。

そしてまた、インドは豊かな国でもあるのです。インド料理の舌をつく辛さとインディアン・スイート（菓子）のあの何とも言えない甘さのように、あらゆる両極端なものが共存する国。行く所々で「ここはインドだ。」「ここもインドだ。」と言いながらも、それがいつも異った国であるかのように何度も錯覚を感じる国。インドを一人旅できたら、どここの国でも生きていけると言われるほど凄まじい国。しかし、旅を終えた時、なぜかこの国が生き生きと感じられ親しく思えてくるのでした。それは、人々がその地にしっかりと存在する、そのたくましさを感じたからでしょうか。

サムラウの村でも人々は実に堂々と生きていました。村は数々のカーストで成り立ち、それぞれの職を代々に伝えていく。時折おとずれるジプシーの一群、何万頭ものラクダが集まった市、ディワリーというインドの正月行事など、砂漠の自然を撮りそこに生きる人間を撮り上げた“沙の村”、また併映の“ルドッラ・ウィーナ”はインド独特の楽器で、インドだけでなく世界的に名高いアサダリ・カーンの演奏を撮影したもので、ウィーナの音色が何とも言えず素晴らしかった。

# インドヒマラヤ1980年リスト (その1・外国隊)

資料：I.M.F提供

S.NO.	Objective	Height	Organiser / Sponsorer	NO. of team members with name of the LEADER	Period	Result
Kashmir						
1.	Agyasol	6200m / 20,350 ft.	Kingston Polytechnic, U.K.	4 Christopher	August	Unsuccessful.
2.	Barnaj II	6290m / 20,637 ft.	Tokyo College	8 William Jones Yoisho Kubora	August	Made first ascents of South (6150m) and Central (6170m) Peaks near Barnaj I Climbed via North Ridge, Alpine Style. Unsuccessful.
3.	Brammah I	6416m / 21,050 ft.	French Nationals.	4 Roland Steiger	September	
4.	Bien Guapa (Unnamed on map. Situated north-west of NUN-KUN and upper part of Chalong Nar.). Flat Top	5972m / 19,707 ft.	Wondervogel Club, Kanagawa University Japan.	7 Hisao Seki	?	
5.	Gulap Kangri	6001m / 19,803 ft.	British Royal Aircraft Establishment Austrian Alpine Club.	5 Major Rodney Wilson (38) Team I 15 Gruber August Leda Team II 9 Adolf Leicht-fried.	August September August September	Climbed via North Ridge. Successful Successful Successful

7.	Kun	7087m / 23,250 ft.	Austrian Alpine Association. (Section Salzburg)	13 Heinz Claus	June-July	Abandoned
8.	Kun	7087m / 20,250 ft.	Austrian Alpine Association.	7 Hochhauser Gunther	July	Successful
9.	Kun	7087m / 20,350 ft.	Hauser Exkursionon Intl.Germany.	16 (4 Females)	August	Could not go beyond 6600m.
10.	Nun	7145m / 23,410 ft.	Austrians.	8 (6 Austrians, 1 Swiss, 1 German)	July	Climbed via west face.
11.	Nun	7145m / 23,410 ft.	Japanese	5 Walter Knezeicek (37)	August	Climbed via N.E. Ridge
12.	Nun	7145m / 23,410 ft.	Americans.	5 Yukito Ito (29) Dr.Thomas Mutch	September / October.	Successful.West Ridge Route.
13.	Padar Region Unnamed Peak	6300m / 20,790 ft.	British Nationals	7 Christopher Mark Lloyd (22)	August.	Dr.Mutch Disappeared at 21,000ft. Presumed dead. Failed, The leader disappeared in a fall on Chering Peak. Presumed dead.
14.	Parcha Kangri	6030m / 19,899 ft.	German Alpine Club.	8 Almhefer Karl	August	2 members - Christopher John Pounds (25) and Dr.David Kenneth Hillenbrandt (26) climbed a small 18,500ft peak on 15. Presumed Climbed.
15.	Parcha Kangri	6030m / 19,899 ft.	---	35 Reis Mueller.	July / August	◇
16.	Parcha Kangri	6030 / 19,899 ft.	---	40 Gabriele Ziekurseh	August	◇
17.	Pinnacle Peak	6952m / 22,810 ft.	Germans	3 Heinz Schauer (28)	August	Failed due to bad weather.

18.	Sickle Moon.	6574m /	British Nationals.	7	August /	Failed due to bad weather.
19.	Stok Kangri.	21,570 ft. 6150m / 21,177 ft. 21,000 ft. 6225m / 20,520 ft. 6150m / 21,177 ft.	Oundle School U.K. German Alpine Club, West Germany. West Germany. Saiyu Alpine Club, Japan.	Ronald Rutland 18 Jonathan Stephan Lee (34) 48 Almhefer Karl. 10 (including 5 females Nagakawa) (29). 8 Louis Le Pivain 12 Michifumi Ouchi.	September July / August July / August	Failed Did not attempt Stok Kangri. In groups climbed 4 Unnamed peaks (5930m, 6220m, 6080m and 6200m)
20.	Stok Kangri	6150m / 21,177 ft.	French	17	August	Climbed Stok Kangri and Gulap Kangri.
21.	Stok Kangri	6150m / 21,177 ft.	Wondervogel Club, of Hokkaido Univer- sity, Japan.	8	August	Failed because of bad weather Successful Successful
22.	White Needle & Nun (East Ridge)	6560m / 22,000 ft.	Le Spedizioni, Italy.	17	August	Climbed both the Peaks.
23.	Z - 1	6400m / 20,150 ft.		Prof. Arturo Bergamaschi.		
24.	Zanskar Area Un-named Peak.	6085m / & 6125m				
<hr/>						
Himachal Pradesh.						
25.	CB-53	6096m / 20,116 ft.	Gumma High School Alpine Club, Teachers Association, Japan.	11 Taiken Murakami (39)	August.	Successful
26.	CB-13	6264m / 20,550ft.	Katano Alpine Club, Osaka (Japan).	6 (including 2 girls) Yoshiharu Hirotsani (33)	July / August	Successful, First ascent.
27.	Hanuman Tibba	5928m / 19,450 ft.	Bergland Alpine Club of Japan.	8 Akira Watanabe (32)	July.	Abandoned due to bad weather, could reach the height of 5200m on 27 July.
28.	K.R.-3 K.R.-4	6290m / & 6340m	British Army.	14 Lt.Col.R.H. Hardie	April / June	

29.	Menthosa	6444m / 21,140 ft.	Osterreichischer Touristenklub of Austria.	7	July	Successful. Alpine Style.
30.	Miyar Nallah Unnamed Peak	20,537 ft.	Ladies Pinnacle Club, U.K.	8	July / August	Failed on the objective but climbed and 14 other peaks between 16-19300ft. Partially successful climbed point 18,315ft. named as Peanut
31.	Miyar Nallah Unnamed Peaks	19,720 ft. 18,315 ft.	Kings School, U.K.	4	August	Partially successful phabrang was climbed from three defferent routes including N.W face unclimbed before Tent Peak could not be climbed due to bad weather. Alpine technique used. On Tent Peak Major J.N.
32.	Phabrang, North West Face and Tent Peak.	6172m / 20,367 ft. 6097m / 20,120 ft.	Royal Navy & Royal Marine Mountaineering Club, U.K.	12 Capt. D.V. Nicholls.	August / September / October.	Patchett was badly injured in stone fall and evacuated. CPO R.G. Thomas died on Phabrang in a 15,000 ft. fall. Called off due to bad weather.
33.	Tapugiri	19,250 ft.	RAF, U.K.	14	July / August	
Uttar Pradesh.				Sqdr. Ldr. E.J.M. Thomas		
34	Bhagirathi I	6856m / 22,624 ft.	Kokugakuin University, Japan.	11	August	Failed. Reached the height of 6150m.
35.	Bhagirathi I	6856m / 22,624 ft.	Kagawa Workers Alpine Federation Japan.	14 Hisatoshi Takabayashi	September October.	Successful
36.	Bhagirathi II	6512m / 21,456 ft.	Gunma Women's Expedition.	5 Miss Hideko Annaka (30)	September October	Successful

37.	Bhagirathi III	6456m / 21,301 ft.	German Alpine Club, W.Germany.	15 Jurgen Winkler	September / October.
38	Bhrigupanth	6777m / 22,218 ft.	American Women's Expedition	8 Arlene Blum	May / June
39.	Bhrigupanth	6777m / 22,218 ft.	Japanese	7 (with one American) Michiro Tsukahara (28)	August. September
40.	Changabang	6864m / 22,520 ft.	New Zealand Alpine Club—Southern	9 Michael Rheinberger (39)	August to October.
41.	Nandakhat	6617m / 21,690 ft.	Australian Section.		
41.	Chaturangi I	6617m / 21,143 ft.	Toyo University	7 Prof.Kenshiro Otaki (32)	August September
42.	Dunagiri	7066m / 23,184 ft.	Austrians.	4 Wolfgang Stefan (54)	May.
43.	Dunagiri	7066m / 23,184 ft.	Alpine Club of Medical Academy, Poland.	11 G.Benke	July / August.
44.	Gangotri I	6672m / 21,820 ft.	Meguro Workers Alpine Club, Japan.	7 Haruo Takahashi.	September
45.	Karchakung	6617m / 21,695 ft.	Torei Climbing Club, Japan.	6 Sueo Miyahara	April
46.	Kedarnath	6940m / 22,770 ft.	Japan Alpine Club, (Women's Wing).	9 Nobuko Takamoto (39)	May / June
47.	Kedarnath	6940m / 22,770 ft.	Himalayan Assoc— iation, Japan.	20 (including 3 ladies) Yoshio Ogata.	September
48.	Kedarnath Dome	6831m / 22,410 ft.	Germans.	2 Dr.and Mrs. Walter Hufnagel.	September / October

49.	Kedarnath Dome.	6831m / 22,410 ft.	Royal Dutch Alpine Club.	5 (including 2 ladies) Eckhardt (32)	September.	Successful
50.	Maiktoli	(6803m / 22,320 ft.)	Spaniards	6 Guillem Arias	September / October.	Successful
51.	Meru (main peak)	6660m / 21,978 ft.	Tokyo University Club, Japan.	7 Prof. Kenshiro Otaki (32)	August / September	Successful. First ascent. Also climbed Chaturangi I - see under Chaturangi.
52.	Meru	6400m / 21,120 ft.	Hida Alpine Club, Japan.	9 Osamu Shimada (42)	September / October.	Successful.
53.	Mrightuni	6855m / 22,490 ft.	Esqui - Club Alpino (Gijar Asturias) Spain.	5 G.J.S.P.ameda.	August / September.	Successful.
54.	Phating Pithwara (Thalay Sagar)	6904m / 22,695 ft.	Suzuki College of Technology, OLB. Mountain Club, Nagoya, Japan.	8 Hiroki Yano	September	Unsuccessful due to snow-fall and lack of food stuff. Reached the height of 6025m.
55.	Pathing Pithwara (Thalay Sagar)	6904m / 22,695 ft.	A party of Britain.	4 J. V. Anthoine	July / August.	Abandoned at a height of 21,200ft. due to shortage of food and fixed rope. Alpine Style attempt.
56.	Powali Dwar	6662m / 22,857 ft.	Ritsumeikan University, Japan.	4 Keisuke Nake (28)	April / June.	Successful.
57.	Shivling	6543m /	Hyogo Workers Alpine Federation, Japan.	9 (includes 2 females) Takao Kobayash.	May / July.	Successful.
58.	Shivling	6543m	Tokyo University Skiing & Alpine Club, Japan.	5 Norio Yasuda (27)	July-September.	Successful via North Ridge, (not climbed before).
59.	Trisul	7120m / 23,360 ft.	DAV Alpine Club, Munich, W / Germany.	18 (14 W / Germany, 2 Netherlanders, 2 Austrians) Walter Wachter.	June	Successful.
60.	Trisul	7120m / 23,360 ft.	Clud Alpino, Italians.	42 (including 8 females) R. E. Alberto (44)	October	Successful.
61.	Vasuki Parbat	6792m / 22,413 ft.	Japanese Ritsumeikan University Alpine Club.	4 Keisuke Nakae	September.	Successful, North and South Summits, Climbed.

## 花を求めて (14)

水野 勉

ジョージ・フォレストの出現とともに、植物探検の資金作りの新しい方法がはじまった。それまでは、採集者は後援者の援助によって派遣されていた。学界あるいは政府の担当部局、のちになつては植物園や個人の資金によってなされていた。植物に対する一般の関心が拡大し、旅行費用が急激に増大するにしたがつて、よく組織された植物採集遠征は、もはや単なる個人や一つだけの組織では手に負えなくなってきた。西部中国のような植物の豊富な地域で、一年にわたる仕事を真にみのりあるものとして成功させるだけの庭園は、公けのものであれ、プライベートなものであれ、どこにもなかった。遠征費用を抛出してくれる人の数が多ければ多だけ、各個人の負担はそれだけ少なくなるのだった。

かくして、庭園のシンジケートができた。大小いろいろな組合であったが、これらが英国のほとんどすべての植物遠征の資金を調達したのだった。

ジョージ・フォレストの場合には、その最後の遠征を除けば、出資者が極めて少なく、それだけ緊密に結びついていた。

これらの植物採集遠征はたいへん成功し、ぼう大な量の、すばらしい植物が庭園に紹介されたが、フォレスト、キングドン・ウォード、ロックその他の人びとの蒐集品が一時期にどっと英国や米国に流れこみ、エキゾチックな植物は洪水のようにひろがり、たいていの庭園では飽和状態になった。この洪水のような流れは去ったが、それがあまりにも大きいものだったために、もっと落ち着いた時期になら紹介されたはずの、多くのすばらしい花々がとり残され、無視されてしまった。

不幸にも、このことはジョージ・フォレストの紹介したのものにも特にあてはまる。かれの主な後援者の一人は、ジャクナゲを見つけ、それが新種

と見なされれば、かれにボーナスを支払った。たいていの出資者もやはりジャクナゲに集中し、他の美しい花には見向きもしなかった。

ジョージ・フォレストは1873年にスコットランドのフォーカークに生れた。かれはいつも野生の花や植物採集に興味を持っていた。親類を訪ねてオーストラリアに行き、1902年まで帰らなかった。帰国後、エディンバラの王立植物園の植物標本室に勤めることになった。

雲南北西部が植物の宝庫として重要なことを知っていた有力者たちが、かれを中国へ派遣することになった。

フォレストはこの仕事にはうってつけだった。背は低いが、頑丈で、鉄のようにながしりした体格をしていた。かれは生来、植物が好きで、特にサクラソウやジャクナゲのような種類が好きで、かれは非常に愛着を感じていた。現地人ともうまくつき合った。かれは頭の悪い者には我慢がなかったし、自分だけの世界だと考えているところへ他人が侵入してくるのを好まなかった。

かれは雲南へは7回の遠征をし、7回目のときに死亡した。

- 第1回遠征 — 1904年5月 — 1907年4月
- 第2回 " — 1910年1月 — 1911年3月
- 第3回 " — 1912年2月 — 1915年3月
- 第4回 " — 1917年1月 — 1920年3月
- 第5回 " — 1921年1月 — 1923年3月
- 第6回 " — 1924年1月 — 1926年3月
- 第7回 " — 1930年11月 — 1932年1月

ジョージ・フォレストは植物採集をするのにビジネスのやり方を採用した最初の間人だといえるだろう。しかし、これはけっして軽蔑の意味ではない。人にはそれぞれやり方というものがある。

ポターニンは武装したコサック兵、各方面の科学者、そして1人か2人の助手を連れていつも旅行をしたが、ポターニ夫妻は自分たちで植物をすべて採集した。ファーラーはいつも採集にあたってはその採集者の個性を重んじた。かれはつねに自分自身の目で見、採集し、乾燥し、のちになってその種子をとった。キングドン・ウォードもまたこの方法を好んだ。しかし、フォレストはできるだけ多くの地域をカバーすることを欲した。

かれ以前のウィルソン、更にもっと前のデラヴェイ、フォード、オギュスタン・アンリなどは、採集者として現地人を使ったし、デラヴェイとオギュスタン・アンリは誰かがある場所へ行くことになったときにだけ、不規則的に採集を依頼したのだった。ウィルソンはたいへん徹底していて、自分の採集者を訓練し、中国における多くの遠征にもずっとかれらを連れて歩いた。しかも、かれらはいつも緊密に連絡し合い、広い地域をカバーし、時間を節約するためにあちこちへ散らばっていたが、いつもウィルソンの目の届くところにいた。

フォレストの場合はそうではなかった。かれの使った採集者たちは徹底的に訓練され、自分だけで行動した。フォレストが英国にいるときでさえ、かれらは独自で何か月も出かけて行って採集した。かれらの大部分は麗江地方のモツ村出身で、互いに知人であり、親類でもあった。現地人を採集者として使う計画は、フォレストが採集をはじめてすぐのものであったが、時が経つにつれて、20人以上も使うようになった。

フォレストのやり方は、重要採集地域の中心に自分がいることだった。この方法はうまくいったように思われる。フォレストの言葉からも、そのすばらしい植物のいくつかは、かれの使った採集者たちによってもたらされたようである。どんな植物でも、花が咲いていたり、実がなっていれば、なんとか識別できる。しかし、種子となると容易ではない。実際の種子採集にあたって、かれが採集者たちをどれくらいまで信頼していたかは、よくわからない。ときどきは誤りが起き、種子はその名称と合わないことがあった。

非常に残念なことだが、フォレストは自分の仕

事やその旅行に関しては殆んど書き残さなかった。フィールド・ノートを別とすれば、かれの書いたものは、Geographical Journal に1、Journal of the Royal Horticultural Society に2、the Gardeners Chronicle に数点、その他の場所に断片をいくつか書いただけであって、これで全部である。かれは日記もつけなかった。手紙についても、第1回、第3回、第4回、第6回の各遠征からのものがいくつか残っていて、植物についての詳しい記述がみられるが、ごくわずかな資料でしかない。

そんなわけで、かれの正確なルートをたどることはほとんど不可能である。また、自分自身とその採集者たちが蒐集した植物とを区別しなかった。騰越と麗江山地という風に、二つの遠くはなれた地域で同じ日に採集されたものとして、いくつかの植物が記入されている。明らかに別の人間によって採集されたものなのである。

第1回の遠征では、しばしば騰越の英国領事、リットンと同行した。かれらは一度は麗江へ行き、サルウィン上流をさかのぼり、北緯27度まで行った。その間、いままで白人が訪れたことのないリス族の居住地域をとおった。

一つの遠征の間にカバーした広大な地域を示す例として、第5回の旅行(1921年1月～1923年3月)をとりあげてみよう。それは次のような地域である：ツァーロン地方の南東チベット、またサルウィンとマイファ川の分水嶺(ツァーロンの南)；ツェクとドケル・ラ附近、白馬山経路で阿敦子まで；成都平野；フォレストの好きな麗江山脈；ムリおよびユン・ニン附近；リ・ティ・ピンの揚子江屈曲点の東；麗江の東の、揚子江を越えたユン・ベイ地方；デラヴェイのかつて活躍した麗江の南西；大理湖の北にある丘陵地帯など。

じっさいの仕事はたいへんな重労働だった。しかも、植物を発見する仕事はもっとも時間的には短かいもので、それ以外の仕事はたいへんだった。

# ビエン・ガパとカンジ・ラ

神奈川大学Ⅱ部WV部海外遠征委員会

同じ頃に、同じ力量と思われるメンバー達が、地域も近い山群に入り同じ頃にそれぞれの報告書を刊行した。

A隊は、6,000mに満たない処女峰を目ざし、B隊は7,000mを越えた既登峰の既登ルートに挑んだ。そして当然のごとく、A隊は登頂に失敗し、B隊は日本人による初登頂を土産に帰国した。

今、手元にあるこの二つの、性格のまるで違う報告書を読みながら「報告書の在り方」を考えさせられている。

ともあれ、今回とり上げた報告書は、A隊即ち神奈川大学Ⅱ部WV部がカシミール・ヒマラヤで1980年に行った登山と踏査の記録である。

記録は常に新鮮でなければ価値が激減する。そういう観点から登山の終了後1年以内に発刊できたことは関係者の努力の賜物であろう。

カシミール・ヒマラヤは、ヌン・クンの7,000m峰が抜きんでいて、これを盟主として南に6,000m峰の秀峰を並び立たせるキュシトワール山群とスリナガル近郊のコラホイやハラムクの5,000m峰が知られている程度で、この登山隊が入山したスリナガルとヌン・クンの間や、ヌン・クンとレーの間はあまり知られていなかった。もっとも、最近では、踏査ばやりの影響を受けて、ヌン・クンの東に広がるザンスカール地方は、日本人の入域が目立ち始めたようだ。

登山隊が目ざした山P5,972m峰には、1979年に東京のコンテニューアスクラブが入山したというから、この小さな山群に目を付けていたのはこの隊だけではなかったようだ。

隊が現地人から聴聞した山名として「ビエン・ガパ」と命名したようであるが、前年に入ったコンテニューアスクラブがこの山をポーバングIと呼んでいることも今後の混乱の元になりはしまいかと懸念される。同隊との接触もあった訳であるからその辺のいきさつも載せるのが前者への礼儀でもあり、資料としての価値も高まることになる。

山は高さが故に尊とからず一とは良く言われることであるが、この山も標高は6,000mに満たないものの気品を感じさせる山である。

編者もあとがきで述べているが、たった2週間程度の山行の割には、いろいろなことが盛りられている。しかし、それも要領良くまとめられていて読んでいても、わずらわしさは感じられない。

特に資料編の気候をとり上げた稿や山名・地名の稿、文献の稿等は、筆者達の執念が読みとれて楽しい。今後への貴重な資料となるだろう。

一体、これらへの執念は何なのか。座談会の稿を読みながら、山の行為と、本を作り資料を収集したエネルギーが一体となっていなかったのではないかと、の思いにかられる。

山登りの行為は、山に登るために費いやされるべきである、とする説からすれば、この登山隊はその中核である山登りの行為そのものへの努力や研さんを少々怠ったように受止められても止むを得ないだろう。

敗退の原因を日数不足ととらえるか、能力不足ととらえるかは、今後への重要な分岐点であろう。次は7,000mへ!!との芽生えがあるなかで、何が真の敗退の原因であったかのグループとしての位置づけが必要となるだろう。

女性隊員が一人であった。その卒直な感想文を読みながら大変だなあと感じた。女性隊員が入ると隊の運営がうまく行かないことは実例が良く物語っている。この隊はそんなことを感じさせる文章はなかったが……。

とまれ隅から隅まで一読に値する好報告書と言って良いだろう。(K)

B5版 153頁 昭和56年6月1日発行  
神奈川大学Ⅱ部WV部海外遠征委員会刊  
2,000円 横浜市神奈川区六角橋3-27-1  
神奈川大学内

# 日本ヒマラヤ会議開催予告

## 前橋・福岡・高知

13回目からの日本ヒマラヤ会議を下記のとおり開催しますので多数の参加を期待します。

### 記

1. 名称 日本ヒマラヤ会議
2. 主催 日本ヒマラヤ協会
3. 後援 (社) 日本山岳協会
4. 目的 この会議は(社)日本山岳協会をはじめとする関係諸団体の御協力のもとに、広く全国をカバーして多くのヒマラヤ志願者に向けて行う研究集会です。情報過多ともいえる中において一面では後退現象もみられる最近のヒマラヤ登山ですが、本会議は、登山とその周辺に関して考究し、最新で正確な情報を提供します。

### ◎ 前橋会場(第13回)

1. 日時 11月7日(土)14時～8日(日)15時
2. 場所 新花茶屋 電(0272)31-3848  
前橋市敷島町240-22 前橋駅前よりバス乗場8番群馬バスバラ園行、11番東武バス川原町行に乗り共に敷島公園
3. 会費 7,000円(一泊二食付・資料代含)
4. 定員 60名

※群馬県山岳連盟と共催して行います。

### 6. 日程

7日(土)

- 14:00 受付、開会
- 14:10 登山報告「HAJ. カンチェンジュンガ1981」八木原暁明氏
- 16:00 最近の高所登山の傾向と戦術  
山森欣一氏

18:00 夕食、懇親

8日(日)

9:00 パネルディスカッション「ヒマラヤの高峰における冬期登山をめぐる諸問題」

冬期登山報告と計画者による討議を行います。

13:00 登山報告(ネパール・インド)

※懇親会費は別途申し受けます。

### ◎ 福岡会場(第14回)

1. 日時 11月29日(日)10時～17時
2. 場所 福岡市(決定後通知します)
3. 会費 2,500円
4. 定員 50名

### 6. 日程

- 10:00 受付・開会
- 10:10 登山報告「HAJ. カンチェンジュンガ1981」山森欣一氏
- 12:00 昼食
- 13:00 講義「わかり易い高所医学知識」  
講師未定(東京医大に交渉中)
- 16:00 最近の高所登山の傾向と戦術  
山森欣一氏
- 17:00 閉会

### ◎ 高知会場(第15回)

1. 日時 12月5日(日)15時～6日(日)12時
2. 場所 高知会館 電(0888)23-7123  
高知市本町5-6-42 県庁前
3. 会費 7,000円(一泊二食付・資料代含)
4. 定員 50名

### 6. 日程

5日(土)

- 15:00 受付・開会  
 15:10 登山報告「HAJ・カンチェンジュンガ1981」 稲田定重氏  
 16:30 講演「ジャーナからエベレストへ」  
 小西政継氏  
 18:30 夕食・懇親  
 6日(日)  
 9:00 登山報告「クン西壁1981他」  
 名越 実氏  
 10:30 ヒマラヤ登山最新情報「ネパール  
 インド・パキスタン・中国」  
 稲田定重氏  
 12:00 閉会  
 ※懇親会費は別途申し受けます。

※いづれの会場も都合により講師を変更する場合  
 もありますので、あらかじめ御諒承下さい。

## 藤江幾太郎

### ◇ネパール油絵ハガキ◇

6枚1組400円(別に送料70円)  
 小額の郵便切手で、お送りください。  
 2組以上は送料サービス  
 10組ごとに1組プレゼント  
 (内容) タムセルク峯・エベレスト峯  
 ナムチエバザール・ポカラ風景  
 アンナプルナ・ヒマラヤ夕照  
 申込み 〒177 東京都練馬区東大泉 6-12-15  
 藤江幾太郎まで  
 電話 03-922-6670



ヒマラヤ登山の専門家

# SITA

並ぶものない山岳サービス

- ★ インド政府許可証
- ★ 通関手続
- ★ 交通機関
- ★ ポーター
- ★ ハイポーター
- ★ デラックス食料賄い
- ★ テント宿泊用具
- ★ マウンテンガイド

**SITA WORLD TRAVEL (INDIA) PVT. LTD.**

F-12, Connaught Place, New Delhi-110001, India

Cable : SITATUR Phone : 45961 Telex : 2823

日本代表

**ファー イースト エンタープライゼス**

東京都港区北青山3丁目6番18号 青山共同ビル ☎407-8100(代表)

新 入 会 員

昭和56年6月11日～ 9月21日

会員番号	氏 名
1524	倉 迫 和 幸
1525	阿 部 直 彦
1526	橋 爪 雅 彦
1527	北 和 則
1528	竹 村 重 和
1529	小 倉 真
1530	馬 場 俊 裕
1531	環 良 導
1532	小 坂 邦 弘
1533	柏 倉 市 郎
1534	伊 藤 智 樹
1535	飯 針 優
1536	石 田 勇 悦
1537	高 坂 裕 紀
1538	森 谷 正 彦
1539	小 玉 義 弘



## UNITED TRAVEL SERVICE(P)Ltd.

■インドヒマラヤ全域のアレンジをすべて日本語でひきうけています。本社にも東京事務所にも日本語に堪能なスタッフが多勢おります。

■許可取得から通関、隊荷輸送、ポーターアレン

ジまで、遠征・トレッキングのすべてを取り扱っております。

■詳細は東京事務所のサニーまでお問合せ下さい。もちろん日本語で!!

東京事務所 〒141 東京都品川区西五反田2-23-11-202 電話 03-493-4920

本社(デリー) 802 Nirmal Tower, 26 Barakhamba Road, New Delhi India  
Phone: 46107, 42804, 43984, Telex: ND3174 Cable: YOKOSO

➤7月、8月と続いたヒマラヤ諸国の政府関係要人の来日に伴う行事も終わり事務局も一息ついているが、このところ急激に秋めいたため不覚にも風邪をひいてしまった。

➤本格的な秋の匂いが事務局にも漂ってくると、“山へ行きたいなあ”と心底から思えて来る。この2年間、のんびりとした山行もできなかったが来年はなんとか身辺整理をして、じっくりと日本の山を歩いてみたいと思う。本当!!

➤冬期エベレスト西稜!! これほどのビッククライムが日本の登山界では話題にもならずに進められている。何と不可思議なことか!!

➤この号が皆様のお手元に届く頃には、H A Jがこの秋に派遣している2つの登山隊の中間報告が届くことであろう。共に無事に登山を終了し、できることなら登頂をも勝ち得てもらいたいものである。(山森)

- 2日(水) ランタン・リ隊後発中岡隊員出発
- 5日(土) 登山学校隊先発寺本隊員出発
- 11日(金) ヒマラヤ119号発刊
- 12日(土) エベレスト打合わせ(稲田、西郡、山森)  
登山学校隊本隊出発
- 30日(水) カンチェンジュンガ遠征報告

ヒマラヤ No.120 (11月号)

昭和56年10月10日印刷 56年11月1日発行

発行人 柴田 金之助

編集人 山森 欣一

発行所 日本ヒマラヤ協会

〒160 東京都新宿区高田馬場3-23-1

淀橋食糧ビル506号

電話 03-367-8521

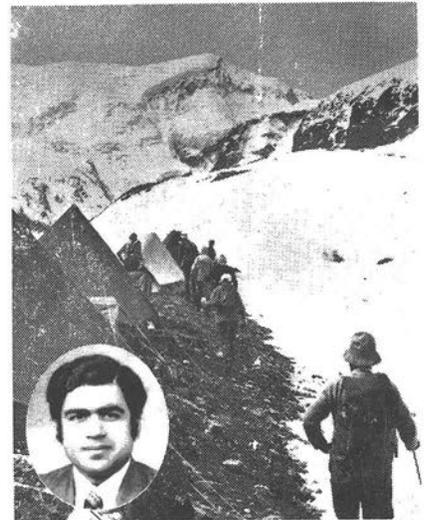
郵便振替 東京 0-48954「日本ヒマラヤ協会」

# Shikhar Travels

— シカール・トラベル —

## “魅惑の インド・ヒマラヤ”

シッキム・ブータン・ガールワール・クマオン  
クル・マナリ・ラダック・ネパール・・・  
へのトレッキングや登山を計画されている日本の皆さん!  
当、シカール・トラベルは、通関・隊荷輸送からガイド、  
ポーター、ポニーのアレンジなどすべてのご用命を承ります。



CAPT SWADESH KUMAR  
(MANAGING DIRECTOR)

Shikhar

TRAVELS PRIVATE LIMITED

1,701, Nirmal towers,

26 barakhamba road new delhi-110001

tel. 42555, 42666 telex 031-4364 SHIK IN Cable SHIKHE

Branch office:Gangtok

Camp office:Joshimath & Uttarkashi



<p><b>ヒマラヤを歩き、 そして登るために</b></p> <p>第4回、第5回東日本ヒマラヤ研究会報告。ネパール、インドの情報や高所登山論収録。</p> <p>1975.11 B 5 274P 2,400円 ㊦ 400円</p>	<p>The Himalayan Association of Japan <b>日本ヒマラヤ協会 出版物案内</b> (HAJ)</p> <p>問い合わせ：HAJ事務局 発売元：〒102 東京都千代田区九段北 1-6-7 (株)地方・小出版流通センター 直納店：茗溪堂(お茶の水) 紀伊國屋(新宿) ICI・石井スポーツ(新大久保) カモシカスポーツ(高田馬場)</p>	<p><b>シェルパの履歴書</b></p> <p>ネパールのシェルパで活動している者ほとんど全員をリストアップした。顔写真、登山歴、評価、文献など。インド・ヒマラヤのシェルパも一部含む。</p> <p>1977.3 B 5 198P 2,400円 ㊦ 400円</p>
<p><b>中央アジア シルクロード (新版ガイド)</b></p> <p>天山の麓の街、チベット、アフガニスタンやパキスタンの奥地、イランやトルコの間々、そして、シルクロード車の旅などロマンをさそうガイド。</p> <p>1977.5 B 6 167P 1,600円 ㊦ 250円</p>		<p><b>インドヒマラヤ のすべて</b></p> <p>インド登山の手続や、インド登山隊の記録、サセルカンリ研究、シッキム研究などインド・ヒマラヤのことがいっぱい</p> <p>1976.11.10 B 5 160P 2,400円 ㊦ 300円</p>
<p><b>カンジェラルワ 初登頂</b></p> <p>1973年、西ネパールのカンジロバヒマールに遠征した遠征隊の記録。写真、カット多数。</p> <p>1976.10.10 B 5 173P 1,600円 ㊦ 400円</p>	<p><b>カシミールの盟主 ヌン7135m</b></p> <p>1975年、当時未踏のヌン北稜に挑んだHAJ登山隊の報告書。写真多数、上製本。</p> <p>1978.4.1 B 5 111P 3,500円 ㊦ 400円</p>	<p><b>トリスル28日間 1978 TRISUL 7120m</b></p> <p>78年ポストモンスーン、ガルワールのトリスルに遠征しI峰、II峰、無名峰の3座の登頂に成功した際の記録。</p> <p>1979.2 B 5 143P 上製本 3,000円 ㊦ 400円</p>
<p><b>月刊誌「ヒマラヤ」</b></p> <p>ヒマラヤ、シルクロード、ビルマ、チベットなどの情報がいっぱい。毎月1回1日発行 500円 ㊦ 45円 年間講読料 6,000円</p> <p>日本ヒマラヤ協会々員には無料配布。</p>	<p><b>日本ヒマラヤ協会年報 HIMALAYA 1980</b></p> <p>バツラII(1978年)、キャシー・ドラル(1979年) 日本人のヒマラヤ登山と事故、ダンビルの地図帳等を収録。</p> <p>1981.1 A 5 156P 2,000円 ㊦ 300円</p>	<p><b>合本ヒマラヤ 月刊ヒマラヤの合本</b></p> <p>20号～40号、41号～60号 61号～80号、81号～100号</p> <p>各巻共 8,000円 ㊦ 500円</p>

# ヒマラヤへの装備



◎遠征隊の装備、相談にのります。



## ICI 石井スポーツ



- 新宿登山本店 / 〒160東京都新宿区百人町 2-2-3 ☎03(208)6601(代)
- 新宿西口店 / 〒160東京都新宿区西新宿 1-16-7 ☎03(346)0301
- 水道橋ハードギアショップ / 〒101東京都千代田区三崎町 2-8-14 ☎03(264)5575
- 水道橋ソフトウェアショップ / 〒101東京都千代田区三崎町 2-8-6 ☎03(264)8901
- 大宮店 / 〒330埼玉県大宮市宮町 2-123 ☎0486(41)5707
- 高崎店 / 〒370群馬県高崎市新町105 ☎0273(27)2397
- ICI通販部 / 〒160東京都新宿区大久保 2-19-10東和ビル内 ☎03(200)7219